

私たちの、盛岡ブランド

ブランドの語源は、所有者を区別するために、家畜に押された焼印のことでした。現在は、そのものを持つ「価値」を、他のものと差別化するために用いられています。盛岡市では、2年前に盛岡ブランド推進計画を策定し、ブランドづくりに取り組んでいます。盛岡の魅力を全国にアピールするためのブランド戦略、「盛岡ブランド」について、あらためて検証してみます。



【御休み処】として活用されている町家「大澤家」。ヘアガラスやパネルヒーターも使われ、盛岡らしい住宅のモデルハウスともいえそう。入場無料。中ノ橋通の「紅茶の店 しゅん」が、カフェの運営を行っている、身も心もくつろぐことができます。電話622-8989 Open11:00～17:00（水曜定休）

「盛岡ブランド」とは

地域間競争が激化する中、地域が生き残るためには、他との差別化が必要となり、多くの自治体が「地域ブランド」に取り組んでいます。その中でも「盛岡ブランド」は、全国紙で取り上げられるほど注目を集めています。

「盛岡ブランド」の特徴は、多くの地域が『特産品ブランド』に取り組む中、『暮らし文化』そのものをブランドの原点としたことと「暮らしの話すのは、盛岡市ブランド推進長の坂田裕一さん。ブランド化にあたっての調査で、「人も産物も景観も、その根源はすべて盛岡の『暮らし文化』にあつた」と気づき、都市文化と自然のバランスがとれた「盛岡」で、脈々と営まれてきた「暮らし」にこそ価値があると位置づけたのです。キャッチコピーは「もりおか暮らし物語」。今、この「物語」を支える4つのプロジェクトが動いています。

「盛岡ブランド」プロジェクト

■まちなみ景観プロジェクト

歴史文化が香る街並みを保存活用するために、市民協働で街並み整備を進めています。これまでも市民団体「盛岡まち並み塾」がさまざまな活動を行ってきた鉾屋町で、

昨年9月に「町家修景補助」を受けた町家再生第1号が誕生。現在は「大慈清水御休み処・大澤家町家」として観光客や地元の人々の憩いの場となっています。この3月にも第2号が完成する予定です。

■盛岡水の恵みプロジェクト

北上川と岩手山という風景、鮭が遡上する川、酒や豆腐、盛岡冷麺など、名物といわれる品も、水の良さが際立つものばかり。水は盛岡の大切な生活資源であり、観光資源。あらゆる盛岡の水の恵みを保全活用していくプロジェクトです。3月にガイドブックが完成する予定です。

■先人と文化振興プロジェクト

石川啄木など、優れた先人もまた「盛岡ブランド」の価値のひとつです。現在も盛岡在住の作家が活躍し、全国にもファンが多い手仕事の工房もあり、その魅力を生かすイベントや商品、観光ルートの開発を行っています。啄木にちなみ開催された「短歌甲子園」（全国高校生短歌大会）は、全国各地からの参加を得て、今年3回目を迎えます。



盛岡の水の恵みを感じる「湧き水」。水を汲みにくる人が後を絶ちません。写真は「青龍水」。

■特産品ブランド認証

プロジェクト

確かな品質・技術を持つ盛岡生まれのアイテムを認証する制度です。今は申請者を審査する形が主ですが、アンケート調査や市民団体の推薦で認証を促すケースも想定されています。平成20年1月現在、認証を受けているのは盛岡りんご、津志田芋、盛岡冷麺、南部せんべい、その他食品や工芸品などで、合計478件です。

特産品は生産者にも魅力

盛岡特産品ブランドの認証を受けると、「安心・安全なメイドイン盛岡」の証として、認証マークを表示することができます。消費者は安心して購入でき、地元の経済も潤います。しかし実は、購入者以上

に、メリットがあるのが地元を生産者かもしれません。

盛岡特産品ブランド認証委員会事務局の佐々木雷蔵さんによれば、大型店から特産品リストの引き合いがあったり、起業間もない菓子製造者が大型スーパーと契約したり、県外イベントの盛岡デーなどで参加を重ねた企業が、実店舗でも集客増につながるケースが出てくるそうです。

盛岡という

「価値」を共有し、守る

企業や産地の「名前」が、「ブランド」になるのは、他者その「価値」を認めるからです。「盛岡ブランド」も、認めてくれるファンがいてこそ成功します。そのために欠かせないのが、行政だけではなく市民も含め民間を巻き込んだ協働の活動であり、県

内外の数々のPR活動です。「どんと晴れ」など、メディアの露出の効果は絶大です。しかし、個人レベルでも、まだ、できることがあります。

たとえば日々の暮らしを幸せに過ごすこと。季節を愛で、町を歩き、おいしい食事、演劇…と盛岡を楽しむ。身をもって盛岡の「価値」を理解し、新しい魅力を掘り起こし、おしゃべりやブログなどで口コミすることで、多くの人とその「価値」を共有できます。

「ブランドは、期待と信頼の絆です」と坂田さん。それだけに一人でも一つでもファンを裏切れば、マイナスの評価に変わります。「のれんを守る」という言葉のように、「盛岡ブランド」を、企業、個人一人ひとりが守れるかが、鍵といえるでしょう。

盛岡商工会議所の、「盛岡ブランド」

当所では事業の一つとして、「盛岡もの識り検定」を開催しています。「合否以上にこの検定のために得る盛岡の情報は、『盛岡』をさらに好きになるきっかけになるのでは」と、検定を担当する地域活性化支援チーム和井内リーダーは話します。

また、一昨年の部会・委員会の再編に伴い、「盛岡ブランド創出特別委員会」を立ち上げ活動しています。本年度は盛岡市民が感じている盛岡について、会員企業の従業員

を対象にアンケート調査を実施しました。結果、『盛岡の食』については約7割が圧倒的に麺を支持し、『お客様を案内する場所』では盛岡城跡公園、石割桜、中津川といった中心部が上位を占めました。

今後も、盛岡を知り、盛岡の財産を生かし、地域の活性化を図るため、この委員会を中心として民間の視点で「盛岡ブランド」を考えていくとともに、積極的に「盛岡ブランド」の発信に取り組んでいきます。

取材／SANS A企画編集委員会



上：市民団体が開発した、啄木ゆかりの天満宮の狛犬を南部鉄器の工房で作らせたもの。ブランドの要素がいくつも入っています。

下：関係書籍も多種多様。左から、当商工会議所「もりけん本」、「盛岡特産品ブランド認証商品カタログ」、「盛岡市街並み保存活用計画調査報告書」、立原道造「盛岡ノート」復刻本他多数。

2008年度 盛岡ブランド関連行事予定

- 4月12・13日 ■町家と旧暦の雛祭り
- 4月15日 ●第1期特産品認証申請締切り
- 7月上旬 ●盛岡デーイン東京
- 8月中旬 ●第3回短歌甲子園 ●第2期特産品認証申請締切り
- 11月21～24日 ■盛岡のお盆 ●盛岡デーイン関西(伊丹)
- 12月上旬 ▲盛岡もの識り検定
- ※■4月～11月第2土曜日 イベント開催予定(要確認)

お問い合わせ (市外局番019)
 ●盛岡ブランド推進室 651-4111 (盛岡市役所) / ●盛岡特産品ブランド認証委員会事務局 689-2201 (盛岡手づくり村内) / ●盛岡まち並み塾事務局 624-2466 (設計同人内) / ▲盛岡商工会議所 624-5880



短歌甲子園で全国から集まる高校生は短歌文化の担い手であり、盛岡ファン候補です。



盛岡デーは、物産展のほか郷土芸能や朗読劇など文化イベントを組み合わせた催しです。